モンスターハンター　遺志を継ぐ者

海斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
モンスターハンター　遺志を継ぐ者

【Ｎコード】
Ｎ０５９８Ｆ

【作者名】
海斗

【あらすじ】
神龍ラグナロク、それは神の名前

プロローグ

「はぁ、はぁ、はぁ！！」　雪に囲まれたのどかな集落、ポッケ村。そこを猛スピードで走る少年がいた。どうやらかなり急いでいるようで、声をかけてくる村人に気付きもせず駆けていく。　だが、村人達はまたかと笑うと再び自分の生活に戻っていった。

――――――　――――――

――――　――

この世界には、モンスターと呼ばれる生物がいる。　大空を舞い、大地を駆け、海を支配する。

この星の王者たる生物だ。

王者に挑む者、ハンター。　そして、その

これは、一人のハンターの物語である。

第一話　旅立ち

モンスターハンター、この世界に存在するハンターの総称。
大空を舞い、大地を踏みしめ、海を支配する数多のモンスター、その強大な存在に戦いを挑む職業である。
その頂点に立つ者は英雄と呼ばれ、この世の富、名声、力を欲しいままとする。
そして、雪に囲まれたのどかな村、ポッケ村にも一人、最強のハンターを目指す少年がいた。

「ばっちゃん頼むよ！！」
村に響く声、その主の少年はたき火にあたっている一人の老婆に話し掛けていた。

「お前にはまだ早いよ」
しかしこの老婆は少年の話に耳を傾けず、背を向けている。
ちなみにこの老婆はここ、ポッケ村の長、つまり村長である。

「何で！？条件のイャンクック討伐は成功しただろ！！」
そう言って少年が差し出したのは桃色の鱗、俗に怪鳥の鱗と呼ばれ、イャンクックというモンスターから剥ぎ取られる物だ。

「イャンクック位でいい気になるんじゃないよ、そんなに認めてほしいなら古龍でも倒してくるんだねフィオ」

「う…」
そう言われて言葉につまる少年――フィオ、何を隠そうこの少年はハンターである。
少年は本名フィオ・ランドール、17歳でハンター歴1ヶ月、まさに駆け出しの

ハンターである。

そして村長の言った古龍はハンターなら皆が知っている存在。

それは自然を司り、全ての生物の頂点に君臨する最強の怪物。

もちろんフィオのような駆け出しのハンターに狩れるような相手ではない。

「……最低だなばっちゃん。

約束は守るもんだって言ってたのは誰だよ」

「……」

村長はそれに答えず黙っている。

「何でダメなんだよ…ハンターを始めたのだって周りの皆より2年も遅い…中には街に行ってる奴だっている…俺だって街で自分の力を試したいんだよ!!」

フィオは一気にまくしたてた。

この世界に生まれた男の子共通の夢、それはハンターになること。

実際フィオと同年代の男の子はほとんどがハンターになっている。

だが、フィオはそれをさせてもらえなかったのだ。

他ならぬ村長によって……

フィオの言う2年の差、ハンターになるには基本的に15歳から一年ほど訓練所に通い、そこからゆっくりと腕を磨くのが一般的である。

だが、フィオがハンターになったのは17歳。

それまでは訓練所にすら通わせてもらっていない。

「……お前には両親と同じ道は歩んで欲しくなかったんだよ」

村長がそう言った途端、2人を重い空気が包んだ。

フィオの両親…ガリル・オーランドとサリア・オーランド、2人はフィオが小さい頃、ある依頼に出かけたっきり帰って来なかった。それ以来フィオを育てたのは村長は、オをハンターにすることを嫌い、遠ざけていたがフィオの強い願いにより仕方なくハンターになることを許したのだ。

「……父さんと母さんが死んだのは確かにハンターになったからだ」

フィオは顔を伏せて静かな声で話す。

「でも俺は死ぬつもりはないし、父さん達と同じ道を進むつもりもない。俺が歩くのはフィオ・ランドールの道だ!!」

ゆっくりと上げた顔はとても強い顔で、まさにハンターのそれであった。

……私がこの子をハンターから遠ざけたのは無駄だったかね。

村長は苦笑してそう思うとフィオに一枚の紙を差し出した。

フィオはそれを受け取ると不思議そうな顔をして聞いた。

「ばっちゃんこれは?」

「ギルドマスターへの紹介状だよ」

フィオは驚いた顔をして村長を見た。

村長はそれを見ると笑いながら頷いた。

「行っておいで、
ドルドンマに」
「ばっちゃん…ありがとう！！」
フィオは笑い返して言った。
ーーーーーーーーーーーーーーー
怩日、ポッケ村の入り口に数人の人影があった。
「じゃあ…行ってくる」
見送りは村長、元ハンターのおじさん、鍛冶屋や道具屋の人、同年代の友達など親しい者は皆参加していた。
「「「「「気を付けて」」」」」
皆が口をそろえてそう言うのを聞くとフィオは笑って旅立った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0598f/

モンスターハンター　遺志を継ぐ者

2010年10月11日18時36分発行